

第3次富士見町健康づくり計画「健康ふじみ21」及び第3次富士見町食育推進計画(案) に対するパブリックコメント結果について
 実施期間：令和6年1月15日から令和6年2月9日まで
 意見等の提出数 3名 15件

	質問・意見・提案	回答
1	P1 第2次富士見町健康づくり計画の最終年度は、当初、令和4年度ではなかったのでしょうか？	当初は、平成25年度から令和4年度までの10年計画でしたが、上位計画である国の「健康日本21（第三次）」及び県の「第3期信州保健医療総合計画」の策定期間・内容と整合性を図るため、第2次富士見町健康づくり計画を1年延長し最終年度を令和5年度としました。このため、第3次富士見町健康づくり計画期間は令和6年度から令和17年度までの12年間としました。
2	P6 第1編第2章では■年齢3区分別人口の推移表は過去の推移を確認することができますが、第3次健康づくり計画は今後10年間の将来計画を策定するものなので、第2編の第1章中に今後の人口推計表を入れていただき、その人口推計に基づき策定する体裁がいいのではないのでしょうか？	今後12年間の将来計画のため、将来人口を踏まえた計画として、第6次富士見町総合計画で示している今後人口推計を掲載します。
3	P28 児童福祉法の一部改正により令和6年度から子ども課に「子ども家庭センター」が創設されると聞いています。こども課との連携とありますが、国では子ども家庭庁ができ子育て支援を充実しようとしているので、子育て環境の充実を具体的に表現できないのでしょうか？	町では令和6年度から妊娠期から切れ目のない一体的な支援体制の機能を持つ「子ども家庭センター」を創設することになっています。健康づくりの方向性・取組欄の子ども課の後に「子ども家庭センター」を追記し、欄外に、「子ども家庭センター」の役割を追記します。
4	P29 高齢化率が高くなると推計され、特に前期高齢者の就労も増えている状況がある中で、高齢期（65歳～）に対する、健診（検診）体制の充実や受診勧奨などの取組みはないのでしょうか？	高齢者は医療機関の受診機会が増えることから、定期的に健康状態をチェックできる状況がありますが、一定の年齢の方や未診療の方に対しては、青年期と同様に方向性・取組欄に高齢者福祉計画との整合を図り健診（検診）体制の充実や受診勧奨などを追記します。
5	P28～52 表の「健康づくりを支える関係者が取り組みたいこと（ライフステージ別）」と「町民の皆さんに心がけていただきたいこと」の児童期・青少年期のカテゴリ別けが異なっています。表のカテゴリに対応した説明に統一した方がいいのではないのでしょうか？	表でカテゴリ別けしているライフステージに対応して「町民の皆さんに心がけていただきたいこと」のカテゴリ別けを統一して、年齢期に応じた表現に変更します。
6	P43 P45 表中の青年期(20～39歳)・壮年期(40～60歳)の目標欄、方向性・取組欄に適正体重についての表記がありますが、「町民の皆さんに心がけていただきたいこと」には、それに対する表現がありません。このカテゴリのライフステージについては改善を求めないのでしょうか？	このカテゴリでは、成長期にある青年期(13～19歳)と比較して、生活習慣病に伴う体調や体型の変化が現れることから、生活習慣の改善による適正体重の維持に努めるような心がけをしていただく内容を追記します。
7	P88 2行目「培い(つちかい)」は植物を育てる意味合いが強いので、人間の場合は「養い(やしない)」か「育み(はぐくみ)」の表現がいいのではないのでしょうか？	養いと訂正しました。
8	P36「発酵食品」を「ほとんど食べない」割合が7.3%とほかの年代と比べ、最も高い。については掲載しなくても良いと思います。農水省の食育計画、長野県食育計画の中で「日本型食生活」すすめは載っていますが「発酵食品」としての掲載はありません。富士見町計画では、アンケートの設問として「発酵食品」を摂らなければいけない食品としてとらえられそうな表現は削除した方が良いと思います。 また、以前富士見町2次食育計画に載せていた「果物の摂取」について、削除されていると思われます。下記出典の国の第4次計画には果物の摂取について追加項目として挙げられています。是非、我が町の計画に載せられていた「果物の適正摂取100グラム」を追加してはどうでしょうか。	「発酵食品」については、国や県において推奨する「日本型食生活（和食）」に、みそ汁等が含まれることから、摂取状況を把握する内容として記載します。⇒（P36 ■家庭での摂取状況 ○各年代の特徴） 但し、〈15～19歳〉における記載は削除し、〈20歳以上〉において、若い世代（20代）の特徴として記載し、注意書き（※）でみそ汁等が和食に含まれる関係である旨を追記します。また、p93に記載されている「和食について」を参照するよう追記しました。 「果物の摂取」について、摂取状況としてP36に記載してあります。 P43（4）成果指標については、指標項目について主だったものとして整理しましたので、取り組みは継続しますが、指標追加はしない方向です。
9	SDGs（持続可能な開発目標）ここ数年マスコミにも多く取り上げられ、食育の中でも大切な項目です。長野県第4次食育計画最終ページに掲載されています。是非富士見の計画にも載せるようにご検討ください。出典：長野県第4次食育計画SDGs（持続可能な開発目標）参照	第3編 食育推進計画 1. 基本理念 としてP88に〈参考：食育とSDGsの関係性〉について追記しました。

第3次富士見町健康づくり計画「健康ふじみ21」及び第3次富士見町食育推進計画(案) に対するパブリックコメント結果について
 実施期間：令和6年1月15日から令和6年2月9日まで
 意見等の提出数 3名 15件

	質問・意見・提案	回答
10	P37.38 食事バランスガイドの認知度 保健センターで栄養士として勤務していた当時は厚生労働省からこの「バランスガイド」の普及が叫ばれ、妊産婦、保育園、小学校、成人、高齢者の栄養指導の媒体として使用していました。しかしあれから19年経つ現在ではめっきり啓発リーフレットやホームページ（古い発行のものもあります）でも見かけなくなりました。理由としてはとてもこの媒体を説明するのに時間を要し、ライフステージごとに皿の量も変更しないと等しい等の理由があります。農水省第4次計画にも、長野県第4次計画にも掲載されていません。富士見町第3次計画に食事バランスガイドについてあえて掲載はしないかと思われまます。ここでもし、第3次町食育計画に載せるのであれば、各年代を通して町で普及啓発する必要があると思えます。	国の食育推進基本計画には「食事バランスガイド」の啓発推進として掲載されていますが、長野県の第4次計画には記載がなく、担当課としてご意見いただいた内容について検討し、今後町として「食事バランスガイド」を媒体として積極的には活用しないという結論に至りました。「バランスガイドの認知度」と、「信濃の食事バランスガイド」については削除しました。
11	オーラルフレイル予防について掲載する。 高齢者が生涯自分の歯で美味しく食べるには「オーラルフレイル予防」が大切です。是非掲載して欲しいと思えます。	P92③生活習慣について ■ゆっくりよく噛んで食べる人の割合 コメントに現状と課題に対して、取組みについてオーラルフレイル予防について追記しました。
12	県の計画で推進とうたわれている「こどもカフェ」「こども食堂」は、富士見町においても「こども食堂」、「子どもフェス」として発足し、ボランティアや食生活改善推進員、栄養士等の協力の元、すでに活動しています。富士見町でも今後、食育計画の中でうたいたい支援しても良いのではないのでしょうか。 出典：長野県食育計画「こどもカフェ」「こども食堂」第3節 食の循環と地域の食を意識した食育《地域共生の推進》	現在のボランティアにおける活動については、P105「(2) 施策の方向性と展開〈施策3〉地域・関係団体の連携と人材育成」として体制整備と人材育成について記載しています。 また、P106「(4) 今後の取組」の中で【地域等】食に関するボランティアについて、「活動の場を増やす」「協力し活動を行う」ことが記載されており、【行政】「食に関するボランティア育成に努める」ことを記載しています。
13	【追加指標】の提案 ○食塩摂取量の平均値追加	・町単独での調査指標がないため指標追加はしない方向。 P37■食生活の状況「○塩分をひかえている」項目として現状の記載と、P43(4) 成果指標についても同項目を指標として採用。
14	【追加指標】の提案 ○野菜摂取量の平均値	・町単独での調査指標がないため指標追加はしない方向。 P35～■家庭での摂取状況○各年代の特徴 「野菜を毎日摂取している」項目について現状の記載と、P43(4) 成果指標についても同項目を指標として採用。
15	現在、55歳になり感謝していることが育ててくれた家族と富士見町の環境です。この歳になるまで病気にいかからず、元気なのは幼い頃の食事ではないかと考えるようになりました。自分の家の畑で採れた野菜と祖母の作ってくれた昔ながらの地元食、郷土料理というよりその時の旬の野菜料理の大切さ。その当時は特に好きでもなく、仕方なく食べていましたが、今食べるとなつかしさもあり、おいしくて体に優しい料理だったと知ることができます。計画案を拝読して「行事食」や「郷土料理」の取組みを見ていいなあと感じました。今一番、興味があるのは、富士見町のおばあちゃん（80～90歳）くらいの方々から、先代から伝わる富士見町の料理、お客様のおもてなし料理を昔のレシピでご伝授頂きたいです。そして私達が後世に残せるよう、日頃の食事にもできるようにしたい。そのような機会を通じて、先人たちの知恵も継承したいです。	・ご意見いただいた「和食・郷土食」について今後も普及啓発活動を推進していきたいと考えます。 郷土食の伝承事業として、食生活改善推進員の協力により子どもたちを対象にした「ふるさとクッキング」事業を実施しています。（令和2年から新型コロナウイルス感染症の影響で休止） 今後、町民のみなさまに幅広く参加していただけるような事業について検討し、実施事業の周知のため積極的な広報活動を行います。また、地域において活躍している「食生活改善推進員」の活動について、情報提供をしていきます。